

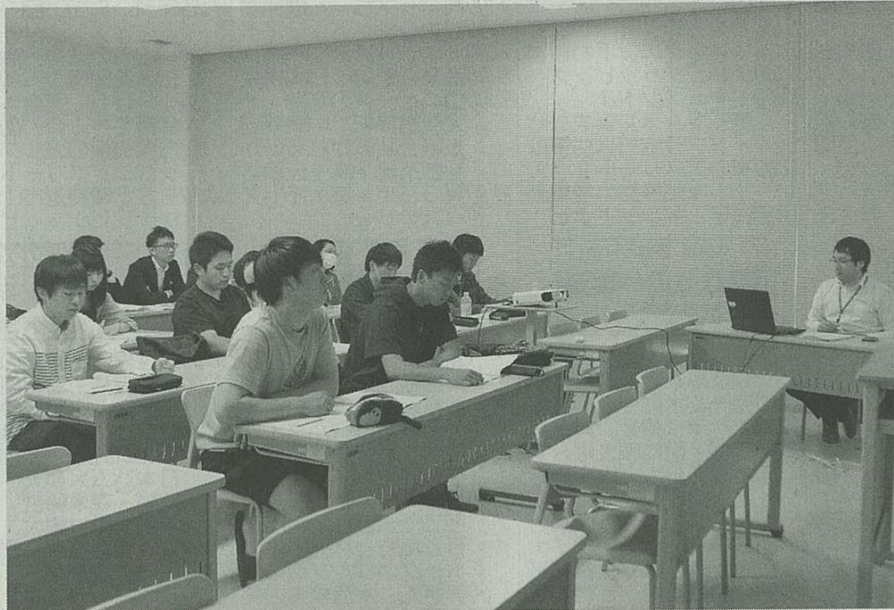
つたえる地域 つながる地域

高齢化の現状知ろう

地域包括ケアなど八学大生に講義

高齢者が住み慣れた地域で生活し続けられる体制の整備を目指し、八戸市が進める「生活支援体制整備事業」に関するワークショップに参加する学生を対象にした「地域包括ケアシステム推進学生サポート―養成研修」が17日、八戸学院大で始まった。初日は市の高齢者福祉施策について担当者が講義し、同大健康医療学部が、高齢化が進む現状や支援体制について学んだ。

(三浦千尋)



八戸市の高齢者福祉施策について理解を深める学生ら

市の福祉事業参加前に研修

ワークショップは事業を進めるに当たり、住民と同学部で社会福祉学を学ぶ学生が一緒に学んでグループワークを行うことで、住民ニーズを把握し、解決策を検討するもの。昨年度は市内25地区のうち8地区で実施。本年度は2〜4年の学生17人が参加し、6月30日から4回に分け、残り17地区で実施する予定。

研修会はワークショップの実践の前に、学生に予備知識を身に付けてもらうと初めて開催。17、18、21日の3日間で市の現状や、地域包括ケアシステムの仕組み、グループワークの基本的な技術などを学ぶ。

4年の佐藤里奈さん(21)は「八戸市の抱える課題が分かった。この研修を踏まえて、ワークショップに取り組みたい」と話していた。